

最優秀特別賞 小学生部門

岐阜市立三里小学校 6年

土屋 真優

## 私はラッキーガール！

私は小学六年生。毎日楽しく小学校に通っています。両親は私が生まれた時、今の私を想像できなかったそうです。それには理由があります。私には左手がありません。手首から先がないので、腕がついているだけ、と表現する方が伝わりやすいかもしれません。

生まれつき左手の障害を持った私は、今のところ日常生活で不自由を感じることはほとんどありません。みんなと同じようにできなくても『少しの工夫』でほとんど同じようにできています。学校の友達、先生、まわりの人達も優しく、何か困ったことがあると助けてくれます。

まだ私が二才位だった時、私の左手を見た外国人の方から、

“She is a lucky girl!”

と、笑顔で話しかけられたことがあるそうです。障害は個性といわれることはありますが、『ラッキーガール』という言葉聞いて母は『障害』かわいそう』ではなく『ラッキー』と受け止めてくれる人がいらっしやるのがとてもうれしかった、と言っています。

私には、かなえたい夢があります。行きたい場所、なりたい職業、やってみたいこと。どれも、まわりの人よりも二倍、三倍の努力が必要です。夢をかなえるための目標を立て、目の前にある目標を達成しながら少しずつ夢に近づいて、いつか夢をかなえたいです。

これからも、たくさんの人に助けってもらうことになると思います。しかし、日々の努力と感謝の気持ちを忘れず、いつか私と同じような障害を持った人が私を見て、元気になれたり自信が持てるような、そんな『ラッキーガール』になりたいです。